

デーヴォ ガイド



2022.5.2-8

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

1:10 さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。どうか、みなが一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください。

11 実はあなたがたのことをクロエの者から知らされました。兄弟たち。あなたがたの間には争いがあるようで、

12 あなたがたはめいめいに、「私はパウロにつく」「私はアポロに」「私はケパに」「私はキリストにつく」と言っているということです。

13 キリストが分割されたのですか。あなたがたのために十字架につけられたのはパウロでしょうか。あなたがたがバプテスマを受けたのはパウロの名によるのでしょうか。

14 私は、クリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを受けたことがないことを感謝しています。

15 それは、あなたがたが私の名によってバプテスマを受けたと言われなくするためのでした。

16 私はステパノの家族にもバプテスマを受けましたが、そのほかはだれにも授けた覚えはありません。

17 キリストが私をお遣わしになったのは、バプテスマを授けさせるためではなく、福音を宣べ伝えさせるためです。それも、キリストの十字架がむなくならないために、ことばの知恵によってはならないのです。

一致がなく、仲間割れのようにして分裂分派が起きたことが、コリント教会の問題でした。パウロは同じ心と同じ判断を求めています。

アポロ、ケパ（ペテロのこと）、パウロはそれぞれ賜物や性格が違ったので、コリントの人々も好みがあったのでしょう。または、キリスト教会の中で有力者になりたかったので、この先リーダーになりそうな人物について行こうという考えもあったかもしれません。しかしそれらは全く信仰の価値観からは離れています。

パウロは自分の使命をはっきりと自覚していました。「福音を宣べ伝えさせるために」神は自分をお遣わしになったということです。それぞれに主の使命が違うのですから、誰が一番ということはないのです。

教会においても、またクリスチャンの交わりにおいても、「誰に世話になった」「誰なら自分を分かってくれる」「誰ならついてゆきたい」などということ、行動を決めているうちは、また成熟した信仰とは言えません。背後に主ご自身が働いておられ、その主のみこころをしっかりと見極めて、決断して行動しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 火曜

I コリント



1:18 十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。

19 それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしくする。」

20 知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。

21 事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。

22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。

23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、

24 しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。

25 なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

十字架のことばとは、主イエスが十字架上で話されたことばとも取れるし、または十字架についてのことば、すなわち福音と取ることもできます。いずれも神のことばであり、救いそのものについての言葉です。

神のことばは人間の知恵をはるかに超えていますから、人間がそれを評価することなどできません。

ですから理解もできず高慢な者は、神のことばを「愚かだ」と決め付けてしまうのです。

しかし、救いを受ける人は、神の全能を受け入れる用意が心にあるので、理解できなくても、それを受け入れます。決して否定はしないのです。

このように神のことばである聖書の真理は、この世の知恵によって検証される必要はありません。人間には検証できないのです。ですから「召された者」は、それが学者に対してであっても誰に対してであっても、その人が理解できるように説明する必要がありますが、あくまでも聖霊の知恵を用いて説明するのです。

伝道はやはり聖霊によるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 4日 水曜

I コリント



1:26 兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんさい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

27 しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。

28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。

29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。

30 しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。

31 まさしく、「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

この世の知者と神の国の知者とは全く違います。神の国では、神を恐れ、神の前に自分は無力で罪人であり、知恵のない者であると認められる者が知者なのです。（伝道者の書など）

ですから教会では、この世の価値基準とは別の基準で、人物を見る必要があります。「神の御前でだれをも誇らせない」とありますから、あくまでも謙遜な人が用いられるということでしょう。

この世の知者であること、強さ、身分を自慢したり、頼ったりするようでは、まだ信仰が幼いということになります。「キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。」とあります。ただイエス様と交わり、そのイエス様から日々教えていただいている人が、

本当の知者であり、強いものであり、身分の高い（神の子として）者なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 木曜

I コリント



2:1 さて兄弟たち。私があなたがたのところへ行ったとき、私は、すぐれたことば、すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした。

2 なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。

3 あなたがたといっしょにいたときの私は、弱く、恐れおののいていました。

4 そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。

5 それは、あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵にささえられず、神の力にささえられるためでした。

6 しかし私たちは、成人の間で、知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でもなく、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。

7 私たちの語るののは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは、神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです。

8 この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして悟りませんでした。もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。

9 まさしく、聖書に書いてあるとおりです。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうであ

る。」

パウロの宣教について語ります。彼は人類史上、最も大きな働きをした宣教師です。彼が、「すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした。」というのです。これは傾聴すべきことばです。人が救われるのは聖霊によるのですから、伝道は聖霊によるのです。

それと同時に彼は「私たちは、成人の間で、知恵を語ります。」とも言います。彼はこの世の、すなわち神なき前提によって演繹された知恵と、神によって創造された世界の（または神が御子を遣わしてくださった世の）知恵が相容れないことを知っていたのです。両者は平行線です。

ですから私たちは、ノンクリスチャンの人々が考えることや感じることを知る必要もあります。それと同時に、神の知恵をしっかりと身につける必要があるのです。

教会やクリスチャンの交わりはそのためにもあるのです。一般教養も聖書神学もどちらも必要であり、それを聖霊によって用いていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 6日 金曜

I コリント

2:10 神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。

11 いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。

12 ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。

13 この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。

14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。

15 御霊を受けている人は、すべてのことをわきまえますが、自分はだれによってもわきまえられません。

16 いったい、「だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。」ところが、私たちに、キリストの心があるのです。

この世の知恵と神の知恵の決定的な違いは、御霊によるかどうかということです。神の知恵は人間には理解することは原理的に不可能なので、人間に悟りを与える神の恵みが必要なのです。神であられる聖霊様がその働きをしてくださいます。

ですから聖書を読むときは祈って、聖霊に心を開き、また聖霊をあがめて読む必要があります。勝手に自分の解釈や願いをねじ込んではいけません。



また自分の喜ぶところばかりを、覚えて従っていてもそれは本当の従いではありません。聖霊は人格を持っておられます。聖書を読んで神に従う人は、神という全能なる人格に全面的に信頼して従うという、決心が日々必要なのです。

「生まれながらの」肉の人ではなく、御霊の人として、聖書の啓示をもらいましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:1 さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するように話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。2 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。

3 あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。

4 ある人が、「私はパウロにつく」と言えば、別の人は、「私はアポロに」と言う。そういうことでは、あなたがたは、ただの人たちではありませんか。

5 アポロとは何でしょう。パウロとは何でしょう。あなたがたが信仰に入るために用いられたしもべであって、主がおのおのに授けられたとおりのことをしたのです。

6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。

7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。

8 植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けます。

9 私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。

3:10 与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そし

て、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。

11 というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。

12 もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、

13 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためますからです。

14 もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。

15 もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。

パウロはコリント教会のクリスチャンのことを「幼子」「肉に属する人」と言っていますが、その理由は、分裂分派にありました。人を傷つけることは恐ろしい罪ですが、イエスを傷つけることはそれ以上の罪と言えます。教会はキリストのからだですから、教会を傷つけることはイエスを傷つける行為ですし、ましてやその体を切断するようなことはあってはなりません。

ですからパウロがコリント教会の問題として第一に挙げたことが分裂、分派でした。そしてそのような重大性もわからずに、「アポロにつく」「パウロにつく」というような分派の火種をつくるような言動は、幼稚だということです。

当時もそうですが、ただでさえまだ少ないクリスチャンが、力を合わせなければ宣教どころか、この世に負けてしまうのに、一致を乱すようなことは愚かなことでもあります。

パウロはそこであくまでも、主を中心に考えることを勧めます。教会のクリスチャンは神のもの

です。そして、建物のように組み合わせられ、立て上げられ、また畑のように命を育み成長して、実を結び、増加してゆくものなのです。

そこでパウロは私たちクリスチャンの人生の意味について言及します。その人生が本当に主のために生きる人生か、それともただ救われているだけの人生か、そこには大きな違いがあります。パウロはそれを「金銀宝石」で建てた人生か、「木草わら」で建てた人生かという表現をしています。

私たちは自分の毎日が、「金銀宝石」かどうかはわかるものです。無頓着なクリスチャンであっても、「その日」すなわち終わりの日か、または試練の日には明らかにされてしまいます。主のために生きない者の人生は最後には、空しく崩れてしまうことです。もちろん救いは損なわれないのですが、「金銀宝石」の毎日であるかどうか、自分でまず考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16 あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

17 もし、だれかが神の神殿をこわすなら、神がその人を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。

3:18 だれも自分を欺いてはいけません。もしあなたがたの中で、自分は今の世の知者だと思者がいたら、知者になるためには愚かになりなさい。

19 なぜなら、この世の知恵は、神の御前では愚かだからです。こう書いてあります。「神は、知者どもを彼らの悪賢さの中で捕らえる。」

20 また、次のようにも書いてあります。「主は、知者の議論を無益だと知っておられる。」

21 ですから、だれも人間を誇ってはいけません。すべては、あなたがたのものです。

22 パウロであれ、アポロであれ、ケパであれ、また世界であれ、いのちであれ、死であれ、また現在のものであれ、未来のものであれ、すべてあなたがたのものです。

23 そして、あなたがたはキリストのものであり、キリストは神のものです。

この世の知恵と神の知恵の決定的な違いについて、パウロは宣言します。神の知恵はあまりにも偉大なので、人間には本来理解不可能なものです。ですから神の知恵によって生きようとする者は、この世の知恵により頼んだり、またこの世の知恵によっても自分が評価されたいと期待するのは見当違いです。この世から「愚かだ」と思われたとしても、私たちは全能なる神の知恵に信頼して生きるのです。

またここでパウロは分派の問題に戻ります。分派というのは、「自分（たち）の方が正しい、すぐれている。」という考えから始まるからです。神様の知恵を知っている者は、自分の考えが不完全であることを知っているので、分派も分裂も起こさないのです。

コリントの人々は、自分に都合の良い主張を通し、都合の良い生活を得るために、パウロなどの指導者に「つく」という表現をしました。「つく」とは指導を受けるという意味です。または自分を合わせるということでもあるでしょう。しかし、パウロもアポロもケパも、すなわち健全な指導者は人を従わせようなどとは考えてはいません。ただ主に従って欲しいだけです。そしてそのためにこそ、信徒に必要なものを与えるものです。すなわち彼らは「あなたがたのもの」なのです。それだけではなく、キリストのゆえに「すべてあなたがたのもの」なのですから、ちっぽけな都合によって、その大いなる恵を無駄にしないようにというのが、パウロの勧めです。

大きな神の知恵と大きな神の恵みを、自分の主張や都合によって失うことのないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

